

なにわ人権教育ネットワークとの協議等議事録（要旨）

教育委員会事務局 指導部 教育活動支援担当

- 1 日 時 令和7年1月24日（金） 午後6時30分 ～ 午後8時30分
- 2 場 所 大阪市役所 地下1階 第1共通会議室
- 3 団 体 名 なにわ人権教育ネットワーク
- 4 協議等の趣旨 教育全般及び人権教育の推進についての要望
- 5 出 席 者
(団体側)
代表者 他8名
(本 市)
課長級5名 係長級1名
- 6 議 事
 - (1) なにわ人権教育ネットワークが果たしてきた役割とその成果について（項目1）
 - 【団体要望概要】
 - ・今後も引き続き人権ネットとの協議を行うよう求める。
 - 【本市説明概要】
 - ・引き続き行っていく。
 - (2) 今後の同和教育・人権教育の推進について（項目2）
 - 【団体要望概要】
 - ・大阪市全体で、同和教育・人権教育の取組を強化していくべきである。
 - ・人権問題に関しては、個人の気づきが入口になるため、その部分を研修の中でも工夫して、より良いものを作っていただきたい。（意見のみ）
 - 【本市説明概要】
 - ・学校教育全体の中で人権教育を行っていくものであり、普段の関わりや教科指導の中でも、人権的な切り口や学びを検討している。
 - (3) 人権教育推進のための独立した部署の設置について（項目3）
 - 【団体要望概要】

- ・人権教育を推進するためには独立した部署の設置や人権教育の担当者の増員が必要（意見のみ）

（４）人権教育推進のための具体的な方策について（項目４）

【団体要望概要】

- ・人権という形で一括りに同和問題をされるのではなく、同和問題に関してしっかりと取り組んでいただきたい。

【本市説明概要】

- ・同和問題については、子どもたちが学んで大人になり解消していく意味では、非常に大事な人権課題であると認識している。同時に、こどもの人権や外国人差別、障がい者差別の問題などのたくさんの人権課題があり、各学校の置かれている課題も違うため、それぞれの学校が人権課題に対してしっかり解決しているよう支援していく。

（５）人権教育教材集について（項目６）

【団体要望概要】

- ・絵本「も〜お〜うしです。」の人権教材を全市で活用できるようデジタル化していただきたい。

【本市説明概要】

- ・人権教育教材の活用がすすむよう努める。

（６）教職員の人権教育研修について（項目９）

【団体要望概要】

- ・昨年の大阪市職員による差別事象について、研修の中身としてこの差別事象については何か触れられているのか。
- ・部活動指導員等、学校にいろんな外部委託の職員が入って、子どもを指導する生徒指導するという現状になっている。外部の職員への研修は実施しているか。
- ・多様化が進む中、きめ細やかな人権感覚を先生が持てるよう人権教育研修に取り組んでいただきたい。

【本市説明概要】

- ・研修のプログラムや内容で、直接この事案を取り上げて研修実施するには至っていないが、この差別事象を重く受け止め、人権教育の重要性を踏まえ研修を進めていく必要があると認識している。
- ・部活動指導員等大阪市で雇用する職員へは、教育委員会や学校園での研修等で対応している。給食など民間への委託している場合は、第一義的には、雇用主が職員への研修の責任を負うことになると思う。
- ・教職員地域研修推進委員会とともに教職員の人権教育研修を推進していく。

(7) 浪速人権・同和教育推進協議会等の協力・支援について(項目 10)

【団体要望概要】

- ・浪速地区人権・同和教育研究集会は地域の実践や思いを感じることができるので、新任の教員研修に位置づけてほしい。(意見のみ)

(8) 「フレンズカップ オブ ナニワ」などの取り組みの実施について(項目 11)

【団体要望概要】

- ・「フレンズカップオブナニワ」の取組へ、引き続き教育委員会からの支援をお願いする

【本市説明概要】

- ・引き続き支援してまいる

(9) 日本語指導の必要な子どもの教育センター校について(項目 15)

【団体要望概要】

- ・日本語指導の必要な子どもの教育センター校において、人の配置、時間の確保、必要な物品を整えた環境整備を行っていただきたい。
- ・外国籍のルーツがある子に対して、暴言や差別発言をするということが起こっている。年々外国にルーツがある児童が増え、多様化が進む現場で、きめ細やかな人権感覚を教員が身に着ける必要だと考える。研修でも課題として取り組んで欲しい。

【本市説明概要】

- ・日本語指導の必要な子どもの教育センター校で子どもたちが学べる環境を整えていく。今年度は、教育センター校を2人体制にして人数を増やした。今後は、日本語指導が必要な子どもがたくさん集まる学校には、日本語指導をその学校で担えるような形も増やしていく。
- ・外国にルーツがある子どもが増えてきている中、トラブルが発生していることは認識している。教職員地域研修でも多くの研修を実施しており、ニーズの高さは感じている。そうしたニーズに応えた研修を次年度検討している。

(10) ソーシャルワーカーの配置について(項目 18)

【団体要望概要】

- ・教育と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカーの配置状況や資格要件の現状を確認したうえで、今後さらなる研鑽を重ね、より良い支援となるよう望む。

【本市説明概要】

- ・スクールソーシャルワーカーについて、社会福祉士等の資格を有する者を採用しており、現在 65 名を各区へ順次配置し、担当区域内の全ての学校へ赴き対応している。引き続き、取り組んでいく。

(11) 薬物乱用防止について（項目 19）

【団体要望概要】

- ・薬物乱用防止について、低年齢化してきている状況にあって、小学校では、どのような立場の方が講師になっているか。

【本市説明概要】

- ・各校の実情により様々である。養護教諭や薬剤師等によって、薬の適切な使い方などの指導が行われている。

(12) 情報リテラシーについて（項目 20）

【団体要望概要】

- ・学校の教員はインターネット上での差別事象等について把握しているか。教育委員会から現状を伝える等しているか。

【本市説明概要】

- ・新任研修等で、現在の差別については伝えている。

(13) 「なにわ読み書き教室」について（項目 26）

【団体要望概要】

- ・読み書き教室は、部落差別を受けた当事者の声が生で聞ける貴重な場所であり、先生の負担にならないような形で、学校の先生が教室に関われるようなことを考えてほしい。浪速区に外国ルーツの子どもが増えている状況もあり、よみかき教室の活用や行政としての予算の確保についても検討いただきたい。

【本市説明概要】

- ・昨年、区長が浪速読み書き教室を視察し、区役所職員へのボランティア参加の呼びかけや、区広報誌へのボランティア募集記事の掲載などに取り組んでいる。「大阪市識字・日本語教育基本方針」に基づき、教室の充実に取り組むとともに、予算の拡充に向けても取り組んでいく。